

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799500067		
法人名	社会福祉法人 ブロードハーモニー		
事業所名	グループホーム ふれ愛四季の郷		
所在地	大阪府阪南市尾崎町504番1		
自己評価作成日	令和2年2月4日	評価結果市町村受理日	令和2年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年5月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、理念にもある「安心・信頼・笑顔」を忘れずに安心と安らぎの空間を提供しています。出来るところは利用者様に行って頂き出来ないところのみお手伝いをさせて頂いております。また、職員と一緒に季節の行事やおやつレク、GHメニュー(GH独自の季節の食事)を通して一年を楽しんで頂いております。家族会も年2回行い利用者様とご家族の交流を図っております。また、積極的に地域の行事等にも参加され地域との関わりを持つことで「人間としての尊厳」を感じておられると考えています(第2ふれ愛四季の郷認知症教室の開催)。職員と利用者様が馴染みの関係、毎日のメニューを行うことで認知症や機能低下を防いでいると思われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

8年前に開設された複合施設「ふれ愛四季の郷」は、グループホーム1ユニットと小規模多機能施設、特別養護老人ホーム3ユニットを併設しており、避難訓練や各種委員会・会議の合同実施、利用者同士の交流などで、密接に連携している。また徒歩約5分の所に複合施設「第2ふれ愛四季の郷」があり、認知症カフェや認知症教室の開催で連携している。地域との交流は盛んで、各種行事への参加、施設の夏祭りへの子供会・住民の参加、子供会の廃品回収や慰問、各種ボランティア受け入れなどを積極的に行っている。看護師を配置し、色々工夫してきめ細かにケアし、常時おむつの人や風呂嫌いな人がいない。家族との関係も良好で、家族会・運営推進委員会・カンファレンスへ家族が参加し、今回の家族アンケートでも事業所への評価が高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「安心・信頼・笑顔」を中心にGH独自の理念「地域の中で、明るく、楽しく、ほっとできる生活」を実践しています。スタッフ会議等ケアの原則を織り込んでスタッフ間で共有しています。又、昨年度の目標の評価と反省を行い今年度の目標を作成しています。	法人理念と事業所理念・目標を事務所とフロア内に掲示し、職員・家族に周知している。前年度目標の評価を基に、全職員参加で毎年度目標を設定し、今年度は「①毎月の季節を感じる行事を実施します。②入居者様とともに行動することを常に心掛け、お手伝いが積極的にしていただけるよう援助します。」としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	第2施設に地域交流室があります。月1回ではありますがその場所で認知症カフェを開いております。第1施設、第2施設、小規模多機能、地域の皆様と情報交換の場所として開放しております。最近ではテーマに沿って講師を招いて地域の皆様と意見交換会を行いこの空間で利用者様と地域の皆様がどうすれば一番楽しんでいただけるか検討中です。	町内会に加入し、地域の夏祭り・認知症カフェ・作品展・RUN伴(認知症の啓発イベント)などに参加している。また複合施設の夏祭りへの子供会・婦人会・ボランティア・住民の参加、子供会の廃品回収や慰問、各種ボランティア(傾聴・回想法・生け花・書道・紙芝居)の受け入れなど、双方向で盛んに交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様、ボランティアの理解や協力を得ながら認知症の方の尊厳や馴染みの関係を築いています。特に子供会の慰問には笑顔があふれています。これからも馴染みの関係を大事に交流を図っていきたいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、利用者状況、行事報告、事故、ヒヤリハット等について話合っています。特に行事報告では季節にあったものGH独自のメニューが話題となっています。事故報告に関しては事故の内容を追及、解明して職員が共有、事故防止に努めています。	会議は、奇数月の第2木曜日午後定例化し、市職員・地域包括支援センター職員・町内会役員・コミュニティソーシャルワーカー(地域相談員)・利用者・家族の参加を得ている。会議では、事業所の状況を報告し、参加者と意見交換して、運営に活かしている。議事録は家族に配付しており、今回の外部評価結果も開示するとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市町村や地域包括支援センターの担当者と報連相を行い協力関係を築くようにしている。相談員の方も来られ利用者様と直接お話をされている。又、ケアマネが行政に相談、指導を受けたりケアマネ連絡会に参加している。	市の介護保険課・生活支援課とは、各種報告を行ったり、アドバイスを受けて相談したり、日常的に連携している。また毎月1回2名の介護相談員の訪問を受け入れ、地域包括支援センター主催のケアマネジャー連絡会や、地域密着型事業所部会に出席して交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度身体拘束委員会を開催しています。各ユニットからの報告、事例検討会等話し合い情報の共有をおこなうことで職員の認識を高めています。特に知らず知らずのうちにおこなってしまうスピーチロックに関して話し合いの場所をもち職員一人一人が意識を持つことでスピーチロックをなくすように努力しています。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、毎月の勉強会の中で年2回以上研修して、職員に周知している。2か月に1回の複合施設全体の身体拘束委員会に参加し、身体拘束のないケアに努めている。日中はエレベーター・玄関は施錠していないが、利用者は1階の小規模多機能施設へ行ったりして、閉塞感をなくしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1度身体拘束委員会の開催と勉強会にて各ユニットの現状報告を行っています。又、身体拘束や虐待に繋がる不適切なケアをなくす取り組みも行っています。①明らかに虐待、身体拘束と考えられる行為。②非意図的な虐待、身体拘束が疑われるグレーゾーン行為。③虐待、身体拘束につながる可能性のある不適切ケア		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の勉強会で権利擁護について学んでいます。日常生活自立支援事業や成年後見人制度は必要とされている方や家族様と話しあいますが実際そのような方と遭遇する機会がすくなく今後自分で勉強して役立てていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を提示して読み上げて説明しています。質問や疑問点にかんしてはその都度、書面口頭で納得されるまで説明しています。制度改正の場合は同意書を用いて署名捺印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは毎日お話しする機会を設けて意見等を聞かせて頂いています。家族様に関しては面会、受診、家族会等で話を聞かせて頂いています。又、介護相談員の報告や指摘もあります。運営推進会でのアドバイス等もあり職員会議で議題とさせて頂いています。内容にかんして職員共有の認識をもち意見や要望を運営に反映させて頂いています。	家族の訪問時には、利用者の状況を報告して意見・要望を聞き、訪問がない家族からは、メニューの要望聴取や家族会の案内などで月1回電話する時に聞いている。年2回の家族会には約半数が参加しており、受診時や運営推進会議でも意見を聞いている。把握した意見・要望は申し送りノートで共有し、ユニット会議で話し合って運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見、月1回の管理者・リーダー会議においても職員の意見や要望を取り入れています。普段も問題点や職員の悩み等、その都度職員と管理者が話し合いの場所を設け提案や要望を運営に反映させています。	毎月のユニット会議のほか、複合施設全体の7つの委員会・ケアマネジャー会議・管理者リーダー会議などで職員が意見を述べる機会が多い。施設長が参加する会議も多く、意見を運営に取り入れやすい。自己評価表を基に年2回職員面談を実施し、意見を聞いている。職員の利用者担当制を採り、利用者の意見・要望を反映しやすい体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用時の各条件で各ユニットで働いてもらっています。問題が生じたときは代表者と管理者が報連相を行い解決の案を用いています。職員会議に個々の職員の感じていることや望んでいることを話しあい生かしていくことで職員の遣り甲斐や環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎介護技術リスト表や自己評価表を用いて職員の力量を把握しています。また、OJTとOFFJTに参加することで知識やスキルアップを目的に積極的に働きかけ人材の育成に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や認知症カフェで意見交換等、他施設との交流や他施設への見学、交流会の参加を促しネットワーク作りを意識しています。他施設の良いところを取り入れサービスの質の向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接やカンファレンス時に本人や家族様から聞き取りをおこない職員全員でケア内容を話し合います。そして共有の認識をもってケアにあたることで不安を取り除き信頼関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のニーズを把握して相談しやすい信頼関係を心掛けます。利用者様が不穏等にならないように面会や家族様と十分な時間をもってもらい精神的な安定を図って頂くように働きかけます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境変化がもたらす利用者様の様々の不穏状態に対して家族様と十分に話し合いをおこないます。「ありのままを受け止めて」その人に合ったサービスに努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく生活できる環境を見つけ出すとともに役割作り、利用者様と一緒に過ごすことを常に心掛け信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活歴や思い出ノートを活用して「どんな生き方をしてきたか」「家族様とはどんな関わりをもってきたか」関係性をしっかりと理解した上で家族様にしかできないことや精神面でのケアで家族の絆を大切にしながらともに良い関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様とは顔馴染みでもあり精神的な支えでもあります。面会時にはおやつと一緒に食べたり外出に出かけて頂き外食や馴染みの場所で一緒に過ごすことで精神的安定、気分転換を図れるので支援をお願いしています。	フェイスシートや申し送りノートに利用者の馴染みの関係を記録し、職員間で共有している。利用者のかつての友人・知人の訪問があり、併設の小規模多機能施設の友人に会ったり、親族の葬儀・法事に行く人もいる。馴染みのスーパー・商店・美容院を利用する人もいる。入居後に併設施設の利用者と馴染みになった人もおり、継続するよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の利用者様の動向を観察して利用者同士の関係の把握に努めています。また、職員が間に入ってコミュニケーションを図っています。ソファ席に誘導したり席かえをおこなったり関わりを大事に個々での外出も楽しんで頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、電話でその後の様子を聞かせて頂き関係性を途切れないように努めています。又、併設施設なので家族様や利用者様と顔をあわすこともあり直接話しを聞いたり相談事にのらせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での関わり・利用者の言動・家族との情報共有により希望や意向の把握に努めさせて頂いております。把握しづらい方もおられますが、日々の生活の中から表情や何気ないサインに気づけるよう努力しております。	入居時や日常のケアの中で把握した利用者の希望・意向は、フェイスシート・アセスメントシート・申し送りノート・介護記録に記し、職員間で共有している。把握しにくい人は、話しかけへの反応や癖などで察知したり、居室でじっくり話して掴んでいる。通常の食事や外食・レクリエーションなどの希望に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の受け入れ時には、本人・家族・関係者から生活歴や意見を聞き把握に努めております。入居後も生活歴を聞き出せるよう、コミュニケーションに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	目に見える問題(行動や言動)だけでなく、今の状態、様子を会話や聞き取りなどを通して、総合的にとらえ記録していく事で状態の把握と共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前より事業所との情報交換や本人様との面談をとって、介護計画をさせて頂いております。モニタリング・カンファレンスを定期的に行い、本人様の視点で検討する事を意識し、介護計画を作成させて頂いております。	個別介護記録・業務日誌・申し送りノート・アセスメントシート・モニタリング・カンファレンス内容などを基に、介護計画を作成している。計画は、長期目標1年・短期目標6か月とし、毎月モニタリングし、利用者・家族・職員・ケアマネジャー・管理者でカンファレンスして、6か月毎に見直している。計画は、家族にきちんと説明し、話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきは個別記録に都度、記入しております。ミーティングや申し送りを通して、情報を共有し意見交換したうえで、介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が仕事をしていたり、家族様が高齢などの理由により日常的な支援が困難な方もおられます。その時の状況や、状態を臨機応変に判断し、必要に応じて受診の付き添い、買い物などの外出支援など柔軟な対応をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生け花・習字・回想法のボランティアに協力して頂いております。日々の会話の中で、意向を引き出せるよう常に心がけております。また、本施設において認知症教室を開催しており交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を確認させていただき、同意のもとで、事業所協力医療機関での受診をして頂いておりますが、今後も、意向があった際は、これまでのかかりつけ医での受診継続も実施してまいります。	利用者・家族の同意を得て、全員が協力医をかかりつけ医とし、内科は月2回、歯科医・歯科衛生士は週1回(希望者)、精神科は月1回の往診を受けている。週3日整骨院のマッサージ・歩行訓練や、柔道整復師によるマッサージを受けている人もいる。家族同伴で整形外科・眼科・精神科・内科を受診している人もおり、事業所での様子を手紙で受診先に知らせ、受診結果を口頭で報告してもらって	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専任の看護師と連携を図りながら日々の健康管理を行います。異変が見られた際は、外部受診が速やかに適切に受診できるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に必要な情報の提供を行い、入院中も家族様・病院関係者と連絡を取り経過を把握するよう努め、早期退院に向けて対応を整えております。退院時には、家族様の同席の上、病院関係者とのカンファレンスの開催を依頼しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族様には重度化した際の意向を確認させて頂き、「見取りに関する指針」「同意書」を速やかに作成させて頂いております。適切なケアが提供できるよう、研修を実施しております。	入居時に「看取りに関する指針」を説明し、同意書を交わすとともに、「延命治療についての意向確認書」を得ている。利用者が重度化した時は、「看取り契約書」を交わし、看取りの手順書を作成して職員研修を行い、家族・医師・看護師と連携して対応している。過去に1例の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時などに備えマニュアルに沿った研修を行っております。「夜間急変時の対応シート」も用意しており、すぐに確認できる場所に保管しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定し、消防署指導にて利用者参加の上、年に2回避難訓練を実施しております。災害時緊急連絡網・避難経路図・防災対策委員会を整備し、備蓄品も備えております。	複合施設全体で防災対策委員会を設置し、防火防災と災害対応を検討している。「緊急時防災マニュアル」を作成し、年1回は夜間想定 of 自主避難訓練、1回は消防署立ち合いで昼間想定 of 避難訓練を施設合同で実施している。ほとんどの職員が近くに住んでおり、徒歩圏内の第2施設との協力体制の強化を目指している。各フロアに非常袋を設置し、施設全体の備蓄品(水・カップ麺など)も2日分用意してい	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格を把握し「安心・信頼・笑顔」を忘れず言葉・声かけ等に努めております。スタッフ間の発言も含め、プライバシーを損ねない言葉かけに努めております。	毎月の勉強会の中や、外部講師を招いての法人研修で、プライバシーの確保や接遇についての知識・スキルを職員は身に付けている。排泄時はトイレに使用中の札をかけ、入室時は声かけとノックをするなどに配慮している。「認知症の利用者を人間として大切に接してくれている」との家族の声がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外食などの外出支援、行事等で自己決定して頂けるよう、声かけに注意しております。本人様の希望を聞き出せるよう、会話に注意し、望みの把握に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者間のコミュニケーションが図れるよう、日中においては、出来るだけフロアで過ごして頂けるよう声かけさせて頂いております。中には居室を希望される方がいますが、本人様の望まれる場所で自由に過ごして頂く事を常に意識しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣替えを家族様に協力して頂いております。外出時等はおしゃれや身だしなみに注意し、支援させて頂いております。散髪なども希望されたい際は、訪問して頂いている散髪の業者の方に本人様の意向を伝えたくえで、対応して頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回のグループホームメニューや週1回実施しているおやつレクを通して、利用者様にも手伝いに参加して頂いております。	複合施設全体で給食委員会を設置し、メニューの立案や食事内容の評価・改善を行っており、グループホーム内で、職員が交代で調理して提供している。月1回のグループホームメニューや週1回の手作りおやつ、行事特別食・外食(天ぷらなど)も楽しんでいる。利用者は、調理・盛り付け・お盆拭き・テーブル拭き・食器洗いに参加し、職員と一緒に食事をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成しておりますが、出来る限り旬の物を摂取して頂けるよう、意見交換させて頂いております。食事量もチェックしており、食事形態を工夫するなど、少しでも多くの量を摂取して頂けるよう対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい水はお茶を用意し、毎食後、個々の能力に応じた支援を行っております。希望者には週1回の歯科往診を受けて頂き、口腔内の清潔保持に努め、口腔ケアの評価もさせて頂いております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導以外にも排泄パターンを把握するため、利用者様の様子観察に努めております。行動上の合図を見逃さないよう、行動パターンを意識し、都度、トイレ誘導に努めております。	排泄自立に向けた適切な支援によって、常時おむつの利用者はおらず、ほとんどの人が日中は布パンツか布パンツにパッドで過ごしている。夜間だけおむつやリハビリパンツ使用の人がいるが、2時間毎に見回りして個々の状況に沿った支援をしている。適切な支援によって、リハビリパンツから布パンツとパッドに改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄介助時には排便の有無を確認し、便秘の状況を把握するようにしております。水分摂取量を増やして様子を見ながら、看護師とも相談の上、下剤を服用するなど、個々に応じた対応をさせて頂いております。排便は必ずチェック表に記載しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の意志や体調を確認しながら、週3回の入浴を提供させて頂いております。利用者の状態に応じて、ADLの把握に努め、安全に入浴が提供できるようスタッフ間で話し合いをしております。	利用者は、火曜日以外の週3回午前・午後に入浴しており、同性介助を希望する人には対応しているが、入浴拒否や2人介助・リフト使用の人はいない。利用者の好む湯温に調節し、入浴剤やしょうぶ湯・ゆず湯で変化をつけて、気持ち良く入浴してもらうよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身のペースで生活して頂いており、日中でも臥床されている方もおられます。寝返りが困難な方については、定期的な体位変換の実施、安楽な体勢での休息を支援するとともに褥瘡予防に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理のもと、指示された薬剤を書面で確認の上、準備しております。服薬時も名前・日付を確認し、ダブルチェックにて服薬して頂いております。状態に変化があった場合は、主治医・看護師に報告し、指示のもと対応させて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事の家事の分担や役割を持った生活を支援しております。季節の変化を感じて頂けるよう、四季折々のフロア内の飾りつけなども手作業で一緒に行って頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた行事(初詣・花見など)を計画し、出来る限り季節感を感じて頂いております。天気の良い日は散歩に出かけるなど、少しでも外の空気に触れて頂いております。	車椅子の利用者も含めて週2~3回は、買い物、カフェでのお茶・ケーキ、外食などでの外出や外気浴を行っている。花見、泉南のバラ園、初詣、地域のフェスティバルなどに車で出かけている。しかし、昨年度目標の反省として「外出の機会が少なく、気分転換ができなかった」としている。	以前は、天気の良い日にはほぼ毎日散歩や外気浴ができていた。また今回の家族アンケートでも「もう少し外出の機会を増やしてほしい」との声がある。業務の効率化や職員配置・シフトを工夫するなどして、できるだけ外出の機会を増やして、閉塞感をなくし、五感刺激やADL維持を図ることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族様からお金を預かり、職員が支払いの対応をしております。数名ですが、ここで財布を所持されている方もおられ、家族様と相談させて頂き、同意を得たうえで本人様に管理して頂いております。外出時等はスタッフ確認の上で本人様に支払いをして頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際は、都度、対応出来るよう支援させて頂いておりますが、家族様の負担にならないよう、定期的に確認させて頂いております。ご自身で携帯を持たれている方もおられ、ご自由に使用して頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の掃除については、毎日行っており、清潔な空間で過ごす事を意識しております。外出時の写真や一緒に作成した作品を貼りだす事でスタッフ間、利用者間の話題が広がり、心地よく過ごして頂けるよう支援させて頂いております。	リビング兼食堂には3人がけのソファー2脚と1人がけを置き、思い思いに過ごせるようにしている。職員と共作した鯉のぼりの大作や、母の日カーネーションのオブジェ、折り紙の紙簾、外出時の写真などを飾り、季節感と生活感を醸し出している。コロナ禍の時節柄、頻繁に窓を開けて換気するよう留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とリビングを自由に行き来するなどして過ごして頂いております。リビングルームにて談笑、テレビ、DVD等をご覧になられ楽しい空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具や馴染みのあるものがよいのではと提案していますが基本的に家族様や利用者にお任せしております。創作活動で作ったものや写真、お誕生会でのプレゼント等を飾らせて頂いております。	居室には、洗面台・クローゼット・ベット・エアコン・防災カーテンを設置し、利用者は家具・テレビ・仏壇・神棚・ぬいぐるみなどを思い思いに持ち込んで、居心地良く過ごせるよう工夫している。また利用者の体温と血圧のグラフを看護師が掲示し、面会の家族や職員が一目でわかる。居室担当職員が掃除と整理整頓を行い、空室時は窓を開けて換気して、綺麗で清潔に保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやサイドレールの活用で起居の自立を促しています。又、歩行器や杖の使用により歩行の自立を促し安全、自立支援を行っています。		